



# 巖木小だより No. 7

長子配布

令和 5年 7月13日

文責:前田 雅利

～ 豊かな心を培い 夢に向かって 主体的・創造的に活動する子どもの育成 ～

## ◇ 自然の怖さを感じた九州北部の大雨でした

先週末から天気が不安定で心配していましたが、梅雨前線の影響で10日未明から激しい雨に見舞われ、11日朝に唐津市内の小中学校は一斉に臨時休校となりました。その連絡を早朝に緊急でさせていただきました。

朝学校に向かうまでの道中、道路の冠水があったり、アンダーパスが通行止めになっていたりして、「ここで車が止まったらどうしよう。」と不安な気持ちで運転していました。どうにか、学校に到着することができました。学校周辺では、普段は穏やかな清流の中島川や巖木川が濁流と化し、今にも越水しそうな勢いで川岸にぶつかっているのを見て自然の怖さを感じました。

幸いにも本校・校区内の地域で大きな被害は見られなかったとかがっていますが、市内では土石流が発生し、住宅や住人の方が被害に遭われたことも新聞等の報道でなされています。被害に遭われた方に心からお見舞いを申し上げます。

このような不測の事態が発生しそうな(した)時にも、自分の生命を守るために慌てず的確な判断ができるように学校では年間数回の避難訓練を実施していますが、御家庭でも避難場所の確認などをお願いします。



## ◇ あじさい読書を通して考えたこと

6月19日から30日まで、図書委員会を中心にあじさい読書週間を行いました。ぬり絵や4コマまんが、クイズや本さがしゲームのイベントも開催されました。この読書週間の特色は本を毎日2冊借りることができることです。その読書の足跡を各教室の入り口に見ることができました。

読書をするということについて、ある本に読書の3つの効用として次のことが挙げられていましたので紹介します。

**第一の効用** その本の著者と対話すること。

**第二の効用** 読書のいいことは、いつでもどこでも、相手いらずにできること。

**第三の効用** 本を読むと顔がひきしまって、美しくなるということ。

第三の効用について真偽の程は分かりませんが、日本の経済学者の故小泉信三さんが次のように述べておられます。「本を読んでものを考えた人と、全く読書をしない人とは明らかに顔がちがう。読書家が精神を集中して細字を見るため、その目に特殊な光を生じ、読書家の顔を作る。」

まもなく梅雨が明けると思いますが、今年のあじさい読書を通じて読書のきっかけをつかんだ皆さん。これから夏休みを迎えますが、夏休みにも多くの本を読んで多くのことを考えてみてください。そうすると、小泉信三さんが言われるように、顔がひきしまって、美しくなれるかもしれませんね。私も読書をする時間を設けていろいろなことを考えてみたいと思います。